

| | |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 【未来創造プロジェクト】生徒が、希望をもって登校し、笑顔で活動し、満足して下校する学校 |
|--------|---|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | 1 学力の定着・向上をめざし、ICTを活用した授業の工夫・改善 2 きめ細かな指導をととした安全・安心で心潤う教育環境づくり 3 保護者や地域等との連携協力の推進 4 一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地のよい学校をつくる教職員研修の充実 |
|------|--|

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| 年度 | | 学校自己評価 | | | 年度評価 | | 学校運営協議会による評価 | |
|----|---|--|--|--|---|-----|---|---|
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | |
| 1 | (現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○市の学習状況調査において、学びに向かう力等の「各教科の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、市平均と比べ国語、社会でやや高く、数学、理科、G・S でやや低い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語はすべての項目で埼玉県・全国の平均を上回っているが、数学の「図形」「資料の活用」等、論理的に考えたり傾向を読み取ったりする理解が低い。 ○数学、理科、G・S への関心が高まっておらず、生徒が学習することの意義を実感できるようにすること、達成感や充実感を味わえるようにすることが課題である。 | ・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・学ぶ楽しさを実感できる「与野西中版 STEAMS TIME」の創出 | ①5 教科について、ミライシードやスタディサプリを活用し、生徒一人ひとりの取組状況や個々の課題を把握させ、目標をもって学習できるようにする。 ②全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、各教科における本校の課題を分析し、校内研修を通してより効果的な手立てを設定し、学校全体で生徒の学力の向上を図る。 | ①市の学習状況調査において、「各教科の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答をする生徒の割合が市平均を上回ることができたか。 ②調査の分析結果について検討する校内研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを各教科や学年ごとに設定することができたか。また、数学の「図形」「資料の活用」に関する問題について埼玉県、全国の平均を上回ることができたか。 | ①市の学習状況調査の「各教科の勉強は好きですか」の質問の肯定的な回答は、国語：71% (前年度比+3%)、数学：55% (前年度比-3%)、G・S：57% (前年度比-9%) であった。 ②調査の分析結果を踏まえ、各教科や学年ごとに授業改善の手立てを設定することについて、教科会等で検討を行った。数学の「図形」「資料の活用」に関する問題について埼玉県、全国の平均を上回ることができた。 | B | ○次年度の課題は、今年度に引き続き、「各教科の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答をする生徒の割合が低いことである。校内研修では、各教科における ICT の活用方法、探究的な学びの実施方法などを研究するとともに、教職員が、他の教職員の授業を参観し、互いに指導力が高められるような取組が必要である。各教科の楽しさを生徒に伝えるための研究を推進していく。 | 学校運営協議会による評価 実施日令和6年2月15日 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |
| 2 | (現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」「自分にはよいところがある」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を上回った。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が原因となった生徒のけがはなかった。しかし、心に悩みを抱えていたり友人関係や家族間トラブルが原因でやすみがちになったりする生徒が複数いた。 (課題) ○月1度の安全点検を確実に行うだけでなく、生徒が自ら危険を予測したり回避したりする力をはぐむことが課題である。 ○生徒一人ひとりの心身の状況を的確に把握し、適切に関係機関とも連携しながら組織的に支援・相談していく体制、仕組み作りが課題である。 | ・生徒一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む生徒の育成に向けた「安全教育」の推進 | ①年3回の心と生活のアンケートの他に、学校独自のアンケートを年2回実施し、生徒の小さな変化を見逃さないようにする。 ②教育相談部会や特別支援部会では、生徒の状況を共有するとともに、適切な支援を行えるよう学校全体で組織として対応する。 | ①学校自己評価教員アンケートにおいて「生徒指導・教育相談」に係る項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②年5回のアンケートを計画的に行い、対応が必要な案件については、その日のうちに組織として対応することができたか。 | ① 学校自己評価教員アンケートにおいて「生徒指導・教育相談」に係る項目の肯定的な回答99% (前年度比+1%) であった。 ②年5回のアンケートは計画的に実施し、組織として対応することができた。 | A | ○次年度の課題は、登下校時や休み時間など、授業以外の部分で教員と生徒が触れ合える時間の確保ができなかったことである。校務分掌や学年分掌を整理し、発達指示の生徒指導・課題予防的生徒指導の推進を図る。 ○年5回のアンケートは継続し、組織的な対応の一層の推進を図る。 | ○元気なあいさつ、落ち着いた授業風景など生徒と教職員の信頼関係が構築されていると感じる。しかし、年々教育相談的な生徒も増えていくと聞く。次年度以降も、引き続き温かく生徒に接し、生徒が充実した中学校生活を送れるよう支援をしていただきたい。 ○「学校安全」の研究発表を終えたが、ぜひその取組を総括し、継続して地域の安全について考える機会を設けてほしい。今後も「災害ゼロ」の町づくりを創造し、地域と一体となって安心・安全の町づくりに貢献できる生徒の育成に尽力してほしい。 |
| 3 | (現状) ○今年度、学校運営協議会5年目になる。学校、家庭、地域が、それぞれの立場で何ができるか熟議を重ねてきた。まずは、本校のことを地域に知ってもらうため昨年度ホームページをリニューアルし、2万近いアクセスがあった。 (課題) ○今年度は、熟議の中で具体的な取組を決定し協働に向け大きく前進させる。研究指定を受けている「学校安全」や開校70周年に向け見直しを図っている「制服等検討委員会」及び「校則」について、学校運営協議会を有効に活用し方針を固めていくことが課題である。 | ・目指す生徒の姿の実現に向け、学校、家庭、地域で協働する。 ・「清らかな心」を育てる取組の推進 | ①学校運営協議会について、学校だよりやホームページ等を活用し、目指す生徒の姿や協働の取組について家庭、地域と共有できるようにする。 ②学校行事等については、開催方法を工夫し、地域の方にも参観できる機会を作り、学校の教育活動や生徒の成長に対する関心を高める。 | ①学校運営協議会で熟議した内容が実際に生徒の変容につながったか。 ②学校自己評価保護者アンケートにおいて「保護者・地域との連携協力の強化」に係る項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 | ① 学校として初めて与野夏祭りに生徒120名を参加させ神輿を担ぐことができた他、地域の祭りや催しに生徒を積極的に参加させられた。 ② 学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて「保護者・地域との連携協力の強化」に係る項目の肯定的な回答の割合は87% (前年度比同じ) であった。 | B | ○学校運営協議会やホームページ等を活用し、学校の様子は引き続き発信していく。 ○学校運営協議会及び地域の協力を得て、来年度も多くの行事や催しに生徒を参加させることで地域の一員であるという自覚を育成していく。 | ○今年度は、コロナ禍も明け、地域のお祭りをはじめ多くの催しに積極的に参加してもらい地域の活性化に大いに貢献してくれた。次年度以降も、地域との関りを積極的に作り、地域に根差した学校でいてほしい。そして、学校運営協議会の取組が、地域における次世代のリーダーになるよう育てること。本校生徒が、積極的に地域の事業等に参加できるような取組を推進していく。 |
| 4 | (現状) ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとした ICT の活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○教職員の ICT のスキルが二極化している。 (課題) ○ICT の活用について、教員間で取組の差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。 ○今年度導入のスタディサプリの活用方法について全職員で研修を重ね、共有することが課題である。 | ・職員全体が学び合い、一人ひとりが力を発揮できる誰もが居心地のよい教育環境づくりの推進 | ①年間6回の ICT に係る校内研修を実施し、ICT の活用方法について、すべての教職員が学ぶ機会を作る。 ②スタディサプリの導入、授業計画の策定、授業改善など、活用方法について全職員で共通理解を図れる機会を作る。 ③ICT を活用した「こういう授業がしたい」「業務をこうしたい」などの教職員の意見を集約し、より実践的な校内研修を行う。 | ①すべての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的に ICT を活用する状況になったか。 ②学校自己評価に係る教員アンケートにおいて「校内研修」の ICT に係る項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ③スタディサプリは昨年度より運用を開始し、教員が授業改善に役立てる状態になったか。 | ① 欠席生徒に向け、すべての教員が授業の配信を行うなど、日常的に ICT を活用する状況になった。 ② 学校自己評価に係る教員アンケートにおいて「校内研修」の ICT に係る項目の肯定的な回答の割合が99% (前年度比同じ) であった。 ③ スタディサプリは1学期中に運用を開始することはできたが、活用方法に課題があり、教員が授業改善に役立てる状態とはならなかった。 | B | ○次年度の課題は、スタディサプリの有効活用である。学校教育活動全体を通して、活用する場面を位置づけスタディサプリの活用を推進する。 ○今年度は、エバンジェリストを中心に、学年分掌における ICT 化を進めることができた。次年度は、ICT 化が有効であった業務を集約し、学校全体で推進していく。 ○校内研修の内容を精選し、職員全員が学び合い誰もが力を発揮できる教育環境を構築していく。 | ○ICT の環境が整っている現在さらに活用については授業の工夫改善及び業務改善が必要であると言われている。ICT スキルの向上が益々必要になってくるので引き続き、校内研修等を活用し、教職員としてのスキルを高め生徒の成長へとつなげてほしい。 |

